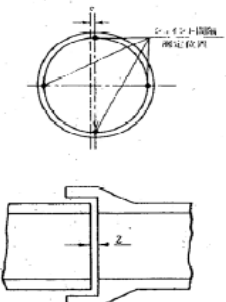
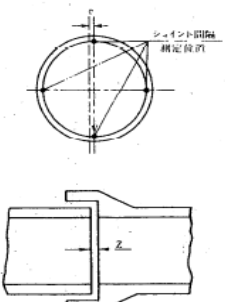
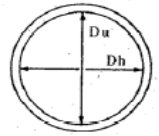
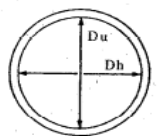


共通仕様書(農林水産土木工事編)「出来形管理基準及び規格値」新旧対照表

項		新(令和2年4月1日)			旧(令和元年10月1日)				
1 水路工事	水路工事	11	管水路 (遠心力鉄筋コンクリート管) RC管	①基準高(V) ②中心線のずれ(e) ③ジョイント間隔(Z) ④施工延長	±30、ただし被圧地下水のある場合 ±50 ±100 別表ア参照 -0.1%、ただし延長200m未満-200	11	管水路 (コンクリート二次製品)	①基準高(V) ②中心線のずれ(e) ③ジョイント間隔(Z) ④施工延長	±30、ただし被圧地下水のある場合 ±50 ±100 別表ア参照 -0.1%、ただし延長200m未満-200
		12	管水路 (鋼管)	①基準高(V) ②中心線のずれ(e) ③施工延長 ④レントゲン塗装厚	±30、ただし被圧地下水のある場合 ±50 ±45 -0.1%、ただし延長200m未満-200 別表オ、カ参照	12	管水路 (鋼管)	①基準高(V) ②中心線のずれ(e) ③施工延長 ④レントゲン塗装厚	±30、ただし被圧地下水のある場合 ±50 ±45 -0.1%、ただし延長200m未満-200 別表オ、カ参照
		13	管水路 (鋳鉄管、強化プラスチック複合管)	①基準高(V) ②中心線のずれ(e) ③ジョイント間隔(Z) ④レントゲン塗装厚 ⑤施工延長 ⑥たわみ率	±30、ただし被圧地下水のある場合 ±50 ±100 別表イ、ウ、エ参照 別表オ、カ参照 -0.1%、ただし延長200m未満-200 ±5%	13	管水路 (鋳鉄管、強化プラスチック複合管)	①基準高(V) ②中心線のずれ(e) ③ジョイント間隔(Z) ④レントゲン塗装厚 ⑤施工延長 ⑥たわみ率	±30、ただし被圧地下水のある場合 ±50 ±100 別表イ、ウ、エ参照 別表オ、カ参照 -0.1%、ただし延長200m未満-200 ±5%
		1	水			1	水		
		路				路			
		工				工			
事				事					

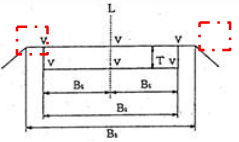
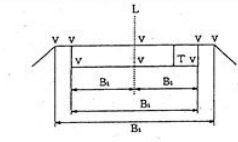
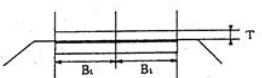
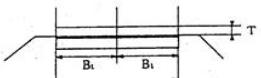
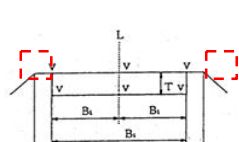
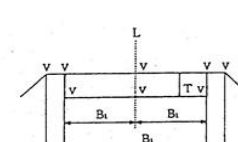
共通仕様書(農林水産土木工事編)「出来形管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(令和2年4月1日)			旧(令和元年10月1日)		
1 水路工事	<p>測定基準</p> <p>基準高、中心線のずれ(直線部)については施工延長おおむね 50m(測点間隔 20m にあつては 40m)につき 1ヶ所の割合で測定する。上記未満は 2ヶ所測定する。ジョイント間隔については、1本毎に測定する。</p>	<p>測定基準</p> 	<p>摘要</p> <p><u>パイプライン(圧力管路)に適用する。</u></p>	<p>測定基準</p> <p>基準高、中心線のずれ(直線部)については施工延長おおむね 50m(測点間隔 20m にあつては 40m)につき 1ヶ所の割合で測定する。上記未満は 2ヶ所測定する。ジョイント間隔については、1本毎に測定する。</p>	<p>測定基準</p> 	<p>摘要</p>
	<p>同上</p>	<p>前図と同一</p>	<p>JIS G 3443 JIS G 3451 水輸送用、塗装鋼管及び異形管</p>	<p>同上</p>	<p>前図と同一</p>	<p>JIS G 3443 JIS G 3451 水輸送用、塗装鋼管及び異形管</p>
	<p>基準高、中心線のずれ、たわみ率については施工延長おおむね 50m(測点間隔 20m にあつては 40m)につき 1ヶ所の割合で測定する。上記未満は 2ヶ所測定する。ジョイント間隔については、1本毎に測定する。たわみ測定は定尺管の中央部とする。測定時期は管据付時(接合完了後)、管頂埋戻時及び埋戻完了時とする。</p>	 <p>たわみ率の計算 $\Delta X / 2R \times 100 (\%)$ $\Delta X = 2R - (Du + t)$ 又は $2R - (Dh + t)$ 2 R : 管厚中心直径 t : 管厚</p>	<p>たわみ率は管径 900mm 以上に適用する。矢板施工の場合は管据付時、矢板引抜き時及び埋戻完了時に測定する。</p>	<p>基準高、中心線のずれ、たわみ率については施工延長おおむね 50m(測点間隔 20m にあつては 40m)につき 1ヶ所の割合で測定する。上記未満は 2ヶ所測定する。ジョイント間隔については、1本毎に測定する。たわみ測定は定尺管の中央部とする。測定時期は管据付時(接合完了後)、管頂埋戻時及び埋戻完了時とする。</p>	 <p>たわみ率の計算 $\Delta X / 2R \times 100 (\%)$ $\Delta X = 2R - (Du + t)$ 又は $2R - (Dh + t)$ 2 R : 管厚中心直径 t : 管厚</p>	<p>たわみ率は管径 900mm 以上に適用する。矢板施工の場合は管据付時、矢板引抜き時及び埋戻完了時に測定する。</p>

共通仕様書(農林水産土木工事編)「出来形管理基準及び規格値」新旧対照表

項		新(令和2年4月1日)			旧(令和元年10月1日)			
7 林道								
7 林 道 物 造 構 盤 路 3	工 種	項 目	規 格 値 (mm)		工 種	項 目	規 格 値 (mm)	
	1. 掘削工	土木工事編Ⅱ 道路土工掘削工 適用	同左		1. 掘削工	土木工事編Ⅱ 道路土工掘削工 適用	同左	
			2. 路体盛土 路床盛土	土木工事編Ⅱ 道路土工 路体盛土工 路床盛土工 適用			同左	
	(1)下層路盤工	土木工事編Ⅱ 一般舗装工 アスファルト舗装工 (下層路盤工) 適用			同左		(1)下層路盤工	土木工事編Ⅱ アスファルト舗装工 (下層路盤工) 適用
			(2)上層路盤工 (粒度調整 路盤工)	土木工事編Ⅱ 一般舗装工 アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 適用	同左			
	(3)砂利道路路盤工 (Ⅰ)	①基準高(V) ②幅(B) ③厚さ(T) ④施工延長			±50 -50 -15% -0.2%、ただし50m未満 -100	(3)砂利道路路盤工 (Ⅰ)	①基準高(V) ②幅(B) ③厚さ(T) ④施工延長	±50 -50 -15% -0.2%、ただし50m未満 -100
			①幅(B) ②厚さ(T) ③施工延長	-100 -15% -0.2%、ただし50m未満 -100	(4)砂利道路路盤工 (Ⅱ)			①基準高(V) ②幅(B) ③厚さ(T) ④施工延長
	(5)コンクリート 特殊路面工	①基準高(V) ②幅(B) ③厚さ(T) ④施工延長	±50 但し、U字側溝と近接する場合にはU字側溝より低くしてはならない。 -25 -10 -0.2%、ただし50m未満 -100	(5)コンクリート 特殊路面工	①基準高(V) ②幅(B) ③厚さ(T) ④施工延長	±50 但し、U字側溝と近接する場合にはU字側溝より低くしてはならない。 -25 -10 -0.2%、ただし50m未満 -100		

共通仕様書(農林水産土木工事編)「出来形管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(令和2年4月1日)			旧(令和元年10月1日)		
7 林道						
	測定基準	測定箇所	摘要	測定基準	測定箇所	摘要
	土木工事編Ⅱ道路土工掘削工適用。	同 左		土木工事編Ⅱ道路土工掘削工適用。	同 左	
	土木工事編Ⅱ路体盛土工、路床盛土工適用。	同 左		土木工事編Ⅱ路体盛土工、路床盛土工適用。	同 左	
	土木工事編Ⅱアスファルト舗装工(下層路盤工)適用。	同 左		土木工事編Ⅱアスファルト舗装工(下層路盤工)適用。	同 左	
	同上	同 左		同上	同 左	
	施工延長おおむね40mに1箇所の割合で測定する。施工延長40m未満は2箇所測定する。厚さは施工延長200mにつき1箇所坪掘により測定する。 基準高は道路の中心線及び____端部で測定する。		転圧施工(砂利道)するもの及びこれらと同等のもの	各測点ごと又は施工延長おおむね40mに1箇所の割合で測定する。施工延長40m未満は2箇所測定する。厚さは施工延長200mにつき1箇所坪掘により測定する。 基準高は道路の中心線及び必要に応じて端部で測定する。		転圧施工(砂利道)するもの及びこれらと同等のもの
	施工延長おおむね40mに1箇所の割合で測定する。厚さは施工延長200mにつき1箇所坪掘により測定する。		上記以外の施工によるもの	各測点ごと又は施工延長おおむね40mに1箇所の割合で測定する。厚さは施工延長200mにつき1箇所坪掘により測定する。		上記以外の施工によるもの
	施工延長おおむね40mに1箇所の割合で測定する。施工延長40m未満は2箇所測定する。厚さは1,000㎡に1箇所の割合で路肩部を掘り起こして測定。 基準高は道路の中心線及び____端部で測定する。			各測点ごと又は施工延長おおむね40mに1箇所の割合で測定する。施工延長40m未満は2箇所測定する。厚さは1,000㎡に1箇所の割合で路肩部を掘り起こして測定。 基準高は道路の中心線及び必要に応じて端部で測定する。		

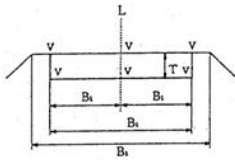
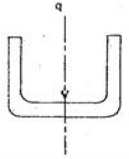
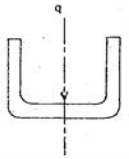
※測点とは、一定間隔で設定された点(ナンバー杭)をいう(BC,MC,EC等を除く)。

共通仕様書(農林水産土木工事編)「出来形管理基準及び規格値」新旧対照表

項		新(令和2年4月1日)		旧(令和元年10月1日)	
7 林道					
7 林 道	路盤構造物	(B)アスファルト 特殊路面工	①基準高 (V) ②幅 (B) ③厚さ (T) ④施工延長	±50 但し、U字側溝と近接する場合にはU字側溝より低くしてはならない。 -25 -10 -0.2%、ただし50m未満 -100	±50 但し、U字側溝と近接する場合にはU字側溝より低くしてはならない。 -25 -10 -0.2%、ただし50m未満 -100
		4. 表層工	土木工事編Ⅱ アスファルト舗装工 (表層工) 適用	同 左	同 左
	道	5. ベンチフリューム 排水フリューム 道路側溝	①基準高 (V) ②施工延長	±40 但し舗装と近接する場合は舗装計画より高くしてはならない。 -0.1% ただし延長200m未満 -200	±40 但し舗装と近接する場合は舗装計画より高くしてはならない。 -0.1% ただし延長200m未満 -200
		6. ウッドカーブ	①延長 (L)	-200	-200
		7. 胴木基礎工 (梯子土台)	①延長 (L)	-200	-200
		8. 丸太法面工	①延長 (L) ②法長 (L)	-200 -4%	-200 -4%
		7. 胴木基礎工 (梯子土台)	①延長 (L)	-200	-200

※改正なし

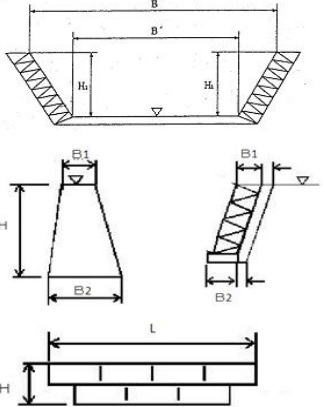
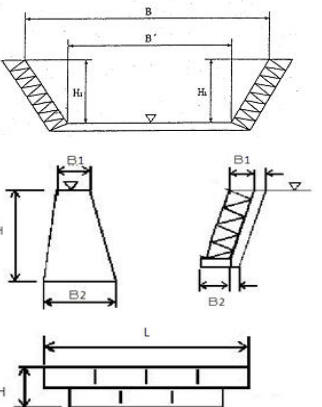
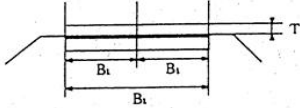
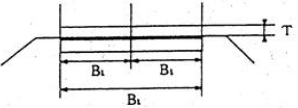
共通仕様書(農林水産土木工事編)「出来形管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(令和2年4月1日)			旧(令和元年10月1日)		
7 林道						
測定基準	測定箇所	摘要	測定基準	測定箇所	摘要	
<p>施工延長おおむね40mに1箇所の割合で測定する。施工延長40m未満は2箇所測定する。厚さは1,000mmに1個の割合でコアを採取もしくは、掘り起こして測定。基準高は道路の中心線及び端部で測定する。</p>			<p>各測点ごと又は施工延長おおむね40mに1箇所の割合で測定する。施工延長40m未満は2箇所測定する。厚さは1,000mmに1個の割合でコアを採取もしくは、掘り起こして測定。基準高は道路の中心線及び必要に応じて端部で測定する。</p>			
土木工事編Ⅱアスファルト舗装工(表層工)適用。	同左		土木工事編Ⅱアスファルト舗装工(表層工)適用。	同左		
<p>施工延長おおむね50m(測点間隔20m)にあつては40m)につき1箇所の割合で測定する。</p>			<p>施工延長おおむね50m(測点間隔20m)にあつては40m)につき1箇所の割合で測定する。</p>			
1 施工箇所毎			1 施工箇所毎			
1 施工箇所毎	土台木の延長を測定する。		1 施工箇所毎	土台木の延長を測定する。		
1 施工箇所毎	延長は法長の中心部もしくは天端と底部の延長を平均して測定する。		1 施工箇所毎	延長は法長の中心部もしくは天端と底部の延長を平均して測定する。		
			<p>※測点とは、一定間隔で設定された点(ナンバー杭)をいう(BC,MC,EC等を除く)。</p>			

共通仕様書(農林水産土木工事編)「出来形管理基準及び規格値」新旧対照表

項		新(令和2年4月1日)			旧(令和元年10月1日)				
8 溪間工・山腹工	8 溪間工	7. 流路工、護岸工	①基準高(中心線)(▽) ②流路幅(B) ③施工延長(中心線)	± 50 - 40 - 0.1% ただし延長150m未満 - 150	7. 流路工、護岸工	①基準高(中心線)(▽) ②流路幅(B) ③施工延長(中心線)	± 50 - 40 - 0.1% ただし延長150m未満 - 150		
		(コンクリート、コンクリートブロック等構造)	①基準高(▽) ②幅(B) ③高さ(H) ④施工延長	± 30 ± 30 - 30 - 0.1% ただし延長150m未満 - 150	(コンクリート、コンクリートブロック等構造)	①基準高(▽) ②幅(B) ③高さ(H) ④施工延長	± 30 ± 30 - 30 - 0.1% ただし延長150m未満 - 150		
		(大型フトンカゴ、フトンカゴ等構造)	①基準高(▽) ②幅(B) ③高さ(H) ④施工延長	± 50 ± 30 - 50 - 0.1% ただし延長150m未満 - 150	(大型フトンカゴ、フトンカゴ等構造)	①基準高(▽) ②幅(B) ③高さ(H) ④施工延長	± 50 ± 30 - 50 - 0.1% ただし延長150m未満 - 150		
	8 溪間工・山腹工	8 仮設工・山道	路盤工	①幅(B) ②厚さ(T) ③施工延長(L)	- 100 - 15% - 0.2% ただし延長50m未満 - 100	8 溪間工・山腹工	8 仮設工・山道	路盤工	①基準高(Y) ②幅(B) ③厚さ(T) ④施工延長(L)

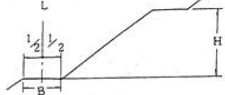
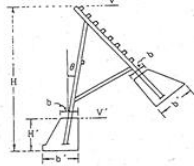
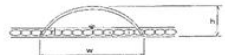
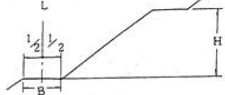
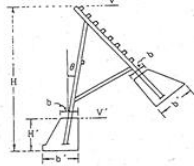
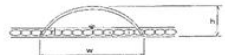
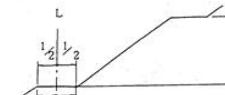
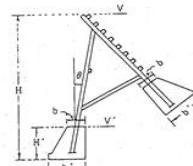
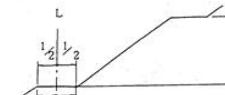
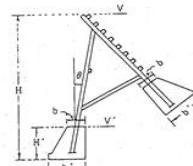
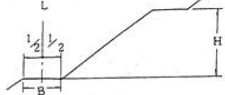
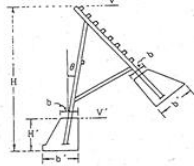
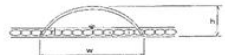
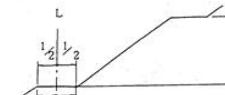
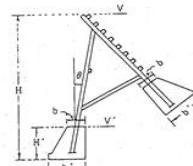
共通仕様書(農林水産土木工事編)「出来形管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(令和2年4月1日)		旧(令和元年10月1日)			
8 溪間工・山腹工	<p>測定基準</p> <p>基準高、幅、高さは、中心線の延長おおむね 50m (測点間隔 20m にあっては 40m) につき 1箇所の割合で測定する。上記未満は 2箇所測定する。</p>	<p>測定箇所</p> 	<p>摘要</p>	<p>測定基準</p> <p>基準高、幅、高さは、中心線の延長おおむね 50m (測点間隔 20m にあっては 40m) につき 1箇所の割合で測定する。上記未満は 2箇所測定する。</p>	<p>測定箇所</p> 	<p>摘要</p>
	<p>施工延長おおむね 40m につき 1箇所の割合で測定する。厚さはおおむね施工延長 200m につき 1箇所箱掘、または坪掘により測定する。</p>		<p>摘要</p>	<p>各測点ごとまたは施工延長おおむね 40m につき 1箇所の割合で測定する。厚さは施工延長おおむね 200m につき 1箇所箱掘、または筋掘により測定する。</p>		<p>摘要</p>

共通仕様書(農林水産土木工事編)「出来形管理基準及び規格値」新旧対照表

項		新(令和2年4月1日)		旧(令和元年10月1日)			
9 山腹工	山	9. 階段工	①幅(B) ②高さ(H) ③延長(L)	- 10.0 % - 10.0 % - 0.2 %	9. 階段工	①幅(B) ②高さ(H) ③延長(L)	- 10.0 % - 10.0 % - 0.2 %
		10. 植栽工	①面積 ②本数	- 0 m ² (活着率 80%以上) - 0 本(活着率 80%以上)	10. 植栽工	①面積 ②本数	- 0 m ² (活着率 80%以上) - 0 本(活着率 80%以上)
		腹	11. なだれ柵工	①基準高(V) ②基礎幅(b) ③パットレスの角度(θ) ④高さ(H) ⑤延長(L)	± 50 - 20 ± 60分 - 50 10m未満(1基当たり) - 50	11. なだれ柵工	①基準高(V) ②基礎幅(b) ③パットレスの角度(θ) ④高さ(H) ⑤延長(L)
	工		12 簡易法枠	枠出来形 ①高さ(h) ②幅(w)	- 20(平均値は設計値以上とする) - 30(平均値は設計値以上とする)	12 簡易法枠	土木工事編Ⅱ 法枠工(現場 打法枠工)適用
		法枠工 木製枠	①法長(l) ②木製枠中心 間隔	$l < 10m$ - 100, $l \geq 10m$ - 200 ± 50	法枠工 木製枠	①法長(l) ②木製枠中心 間隔	$l < 10m$ - 100, $l \geq 10m$ - 200 ± 50
	10 保 安 林 整 備	1. 植栽工	①面積 ②本数	設計面積を下まわらない。(活着率 80%以上) 設計植栽本数を下まわらない。(活着率 80%以上)	1. 植栽工	①面積 ②本数	設計面積を下まわらない。(活着率 80%以上) 設計植栽本数を下まわらない。(活着率 80%以上)
		2. 本数調整伐 除伐(フェンソー伐)	①面積 ②伐採本数	設計面積を下まわらない。 設計伐採本数を下まわらない。	2. 本数調整伐 除伐(フェンソー伐)	①面積 ②伐採本数	設計面積を下まわらない。 設計伐採本数を下まわらない。
		3. 除伐(フェンソー伐 以外)	①面積 ②束数	設計面積を下まわらない。 設計束数を下まわらない。	3. 除伐(フェンソー伐 以外)	①面積 ②束数	設計面積を下まわらない。 設計束数を下まわらない。
		4. 下刈り	①面積 ②被覆状況	設計面積を下まわらない。 設計被覆率を下まわらない。	4. 下刈り	①面積 ②被覆状況	設計面積を下まわらない。 設計被覆率を下まわらない。

共通仕様書(農林水産土木工事編)「出来形管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(令和2年4月1日)	旧(令和元年10月1日)																																																												
9 山腹工	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="344 256 629 287">測定基準</th> <th data-bbox="629 256 958 287">測定箇所</th> <th data-bbox="958 256 1072 287">摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="344 287 629 416">各段の高さ、幅はおおむね主縦断で測定する。延長は階段幅の中心線で測定する。</td> <td data-bbox="629 287 958 416">  </td> <td data-bbox="958 287 1072 416"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="344 416 629 520">面積設計の場合は、植栽範囲を測定する。本数設計の場合は、植栽本数を確認する。</td> <td data-bbox="629 416 958 520">面積が確認できる図面で示すこと。 合計の本数が確認できる図面で示すこと。</td> <td data-bbox="958 416 1072 520">溪間工にも適用。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="344 520 629 703">基準高、幅、角度、高さ、延長は柵工1基ごとに測定する。</td> <td data-bbox="629 520 958 703">  </td> <td data-bbox="958 520 1072 703"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="344 703 629 791">200m²につき1箇所、200m²以下のものは1施工箇所につき2箇所</td> <td data-bbox="629 703 958 791">  </td> <td data-bbox="958 703 1072 791"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="344 791 629 863">法長、木製枠中心間隔は200m²に1箇所、200m²未満については1施工箇所に2箇所測定する。</td> <td data-bbox="629 791 958 863"></td> <td data-bbox="958 791 1072 863"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="344 863 629 967">面積設計の場合は、植栽範囲を測定する。本数設計の場合は、植栽本数を確認する。</td> <td data-bbox="629 863 958 967">面積が確認できる図面で示すこと。 合計の本数が確認できる図面で示すこと。</td> <td data-bbox="958 863 1072 967"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="344 967 629 1054">面積については、施工範囲を測定する。伐採本数については、標準地内の伐採本数を確認する。</td> <td data-bbox="629 967 958 1054">面積が確認できる図面で示すこと。</td> <td data-bbox="958 967 1072 1054"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="344 1054 629 1158">面積については、施工範囲を測定する。束数については、伐採前に標準地内の束数を確認し、監督職員へ提出すること。</td> <td data-bbox="629 1054 958 1158">面積が確認できる図面で示すこと。</td> <td data-bbox="958 1054 1072 1158"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="344 1158 629 1262">面積については、施工範囲を測定する。被覆率については、下刈り前に標準地内の被覆状況を確認し、状況写真を監督員へ提出すること。</td> <td data-bbox="629 1158 958 1262">面積が確認できる図面で示すこと。</td> <td data-bbox="958 1158 1072 1262"></td> </tr> </tbody> </table>	測定基準	測定箇所	摘要	各段の高さ、幅はおおむね主縦断で測定する。延長は階段幅の中心線で測定する。			面積設計の場合は、植栽範囲を測定する。本数設計の場合は、植栽本数を確認する。	面積が確認できる図面で示すこと。 合計の本数が確認できる図面で示すこと。	溪間工にも適用。	基準高、幅、角度、高さ、延長は柵工1基ごとに測定する。			200m ² につき1箇所、200m ² 以下のものは1施工箇所につき2箇所			法長、木製枠中心間隔は200m ² に1箇所、200m ² 未満については1施工箇所に2箇所測定する。			面積設計の場合は、植栽範囲を測定する。本数設計の場合は、植栽本数を確認する。	面積が確認できる図面で示すこと。 合計の本数が確認できる図面で示すこと。		面積については、施工範囲を測定する。伐採本数については、標準地内の伐採本数を確認する。	面積が確認できる図面で示すこと。		面積については、施工範囲を測定する。束数については、伐採前に標準地内の束数を確認し、監督職員へ提出すること。	面積が確認できる図面で示すこと。		面積については、施工範囲を測定する。被覆率については、下刈り前に標準地内の被覆状況を確認し、状況写真を監督員へ提出すること。	面積が確認できる図面で示すこと。		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1187 256 1471 287">測定基準</th> <th data-bbox="1471 256 1823 287">測定箇所</th> <th data-bbox="1823 256 1937 287">摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1187 287 1471 416">各段の高さ、幅はおおむね主縦断で測定する。延長は階段幅の中心線で測定する。</td> <td data-bbox="1471 287 1823 416">  </td> <td data-bbox="1823 287 1937 416"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1187 416 1471 520">面積設計の場合は、植栽範囲を測定する。本数設計の場合は、植栽本数を確認する。</td> <td data-bbox="1471 416 1823 520">面積が確認できる図面で示すこと。 合計の本数が確認できる図面で示すこと。</td> <td data-bbox="1823 416 1937 520">溪間工にも適用。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1187 520 1471 703">基準高、幅、角度、高さ、延長は柵工1基ごとに測定する。</td> <td data-bbox="1471 520 1823 703">  </td> <td data-bbox="1823 520 1937 703"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1187 703 1471 799">土木工事編Ⅱ法枠工(現場打法枠工)適用</td> <td data-bbox="1471 703 1823 799">同左</td> <td data-bbox="1823 703 1937 799"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1187 799 1471 871">法長、木製枠中心間隔は200m²に1箇所、200m²未満については1施工箇所に2箇所測定する。</td> <td data-bbox="1471 799 1823 871"></td> <td data-bbox="1823 799 1937 871"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1187 871 1471 975">面積設計の場合は、植栽範囲を測定する。本数設計の場合は、植栽本数を確認する。</td> <td data-bbox="1471 871 1823 975">面積が確認できる図面で示すこと。 合計の本数が確認できる図面で示すこと。</td> <td data-bbox="1823 871 1937 975"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1187 975 1471 1062">面積については、施工範囲を測定する。伐採本数については、標準地内の伐採本数を確認する。</td> <td data-bbox="1471 975 1823 1062">面積が確認できる図面で示すこと。</td> <td data-bbox="1823 975 1937 1062"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1187 1062 1471 1166">面積については、施工範囲を測定する。束数については、伐採前に標準地内の束数を確認し、監督職員へ提出すること。</td> <td data-bbox="1471 1062 1823 1166">面積が確認できる図面で示すこと。</td> <td data-bbox="1823 1062 1937 1166"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1187 1166 1471 1270">面積については、施工範囲を測定する。被覆率については、下刈り前に標準地内の被覆状況を確認し、状況写真を監督員へ提出すること。</td> <td data-bbox="1471 1166 1823 1270">面積が確認できる図面で示すこと。</td> <td data-bbox="1823 1166 1937 1270"></td> </tr> </tbody> </table>	測定基準	測定箇所	摘要	各段の高さ、幅はおおむね主縦断で測定する。延長は階段幅の中心線で測定する。			面積設計の場合は、植栽範囲を測定する。本数設計の場合は、植栽本数を確認する。	面積が確認できる図面で示すこと。 合計の本数が確認できる図面で示すこと。	溪間工にも適用。	基準高、幅、角度、高さ、延長は柵工1基ごとに測定する。			土木工事編Ⅱ法枠工(現場打法枠工)適用	同左		法長、木製枠中心間隔は200m ² に1箇所、200m ² 未満については1施工箇所に2箇所測定する。			面積設計の場合は、植栽範囲を測定する。本数設計の場合は、植栽本数を確認する。	面積が確認できる図面で示すこと。 合計の本数が確認できる図面で示すこと。		面積については、施工範囲を測定する。伐採本数については、標準地内の伐採本数を確認する。	面積が確認できる図面で示すこと。		面積については、施工範囲を測定する。束数については、伐採前に標準地内の束数を確認し、監督職員へ提出すること。	面積が確認できる図面で示すこと。		面積については、施工範囲を測定する。被覆率については、下刈り前に標準地内の被覆状況を確認し、状況写真を監督員へ提出すること。	面積が確認できる図面で示すこと。	
測定基準	測定箇所	摘要																																																												
各段の高さ、幅はおおむね主縦断で測定する。延長は階段幅の中心線で測定する。																																																														
面積設計の場合は、植栽範囲を測定する。本数設計の場合は、植栽本数を確認する。	面積が確認できる図面で示すこと。 合計の本数が確認できる図面で示すこと。	溪間工にも適用。																																																												
基準高、幅、角度、高さ、延長は柵工1基ごとに測定する。																																																														
200m ² につき1箇所、200m ² 以下のものは1施工箇所につき2箇所																																																														
法長、木製枠中心間隔は200m ² に1箇所、200m ² 未満については1施工箇所に2箇所測定する。																																																														
面積設計の場合は、植栽範囲を測定する。本数設計の場合は、植栽本数を確認する。	面積が確認できる図面で示すこと。 合計の本数が確認できる図面で示すこと。																																																													
面積については、施工範囲を測定する。伐採本数については、標準地内の伐採本数を確認する。	面積が確認できる図面で示すこと。																																																													
面積については、施工範囲を測定する。束数については、伐採前に標準地内の束数を確認し、監督職員へ提出すること。	面積が確認できる図面で示すこと。																																																													
面積については、施工範囲を測定する。被覆率については、下刈り前に標準地内の被覆状況を確認し、状況写真を監督員へ提出すること。	面積が確認できる図面で示すこと。																																																													
測定基準	測定箇所	摘要																																																												
各段の高さ、幅はおおむね主縦断で測定する。延長は階段幅の中心線で測定する。																																																														
面積設計の場合は、植栽範囲を測定する。本数設計の場合は、植栽本数を確認する。	面積が確認できる図面で示すこと。 合計の本数が確認できる図面で示すこと。	溪間工にも適用。																																																												
基準高、幅、角度、高さ、延長は柵工1基ごとに測定する。																																																														
土木工事編Ⅱ法枠工(現場打法枠工)適用	同左																																																													
法長、木製枠中心間隔は200m ² に1箇所、200m ² 未満については1施工箇所に2箇所測定する。																																																														
面積設計の場合は、植栽範囲を測定する。本数設計の場合は、植栽本数を確認する。	面積が確認できる図面で示すこと。 合計の本数が確認できる図面で示すこと。																																																													
面積については、施工範囲を測定する。伐採本数については、標準地内の伐採本数を確認する。	面積が確認できる図面で示すこと。																																																													
面積については、施工範囲を測定する。束数については、伐採前に標準地内の束数を確認し、監督職員へ提出すること。	面積が確認できる図面で示すこと。																																																													
面積については、施工範囲を測定する。被覆率については、下刈り前に標準地内の被覆状況を確認し、状況写真を監督員へ提出すること。	面積が確認できる図面で示すこと。																																																													

共通仕様書(農林水産土木工事編)「出来形管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(令和2年4月1日)	旧(令和元年10月1日)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
別表ア	<p>別表ア 管水路(遠心力鉄筋コンクリート管)のジョイント間隔規格値 (単位: mm)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">呼び径(mm)</th> <th rowspan="3">標準値</th> <th colspan="4">JIS A5372 RC管</th> </tr> <tr> <th colspan="2">規格値</th> <th colspan="2">規格値</th> </tr> <tr> <th>良質地盤</th> <th>軟弱地盤</th> <th>良質地盤</th> <th>軟弱地盤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>150</td><td>6</td><td>+10</td><td>-6</td><td>+5</td><td>-6</td></tr> <tr><td>200</td><td>6</td><td>+10</td><td>-6</td><td>+5</td><td>-6</td></tr> <tr><td>250</td><td>6</td><td>+10</td><td>-6</td><td>+5</td><td>-6</td></tr> <tr><td>300</td><td>6</td><td>+9</td><td>-6</td><td>+4</td><td>-6</td></tr> <tr><td>350</td><td>6</td><td>+9</td><td>-6</td><td>+4</td><td>-6</td></tr> <tr><td>400</td><td>8</td><td>+9</td><td>-8</td><td>+3</td><td>-8</td></tr> <tr><td>450</td><td>8</td><td>+9</td><td>-8</td><td>+3</td><td>-8</td></tr> <tr><td>500</td><td>8</td><td>+9</td><td>-8</td><td>+3</td><td>-8</td></tr> <tr><td>600</td><td>8</td><td>+12</td><td>-8</td><td>+5</td><td>-8</td></tr> <tr><td>700</td><td>8</td><td>+10</td><td>-8</td><td>+4</td><td>-8</td></tr> <tr><td>800</td><td>8</td><td>+12</td><td>-8</td><td>+5</td><td>-8</td></tr> <tr><td>900</td><td>8</td><td>+15</td><td>-8</td><td>+7</td><td>-8</td></tr> <tr><td>1,000</td><td>10</td><td>+18</td><td>-10</td><td>+8</td><td>-10</td></tr> <tr><td>1,100</td><td>10</td><td>+19</td><td>-10</td><td>+9</td><td>-10</td></tr> <tr><td>1,200</td><td>10</td><td>+21</td><td>-10</td><td>+11</td><td>-10</td></tr> <tr><td>1,350</td><td>10</td><td>+23</td><td>-10</td><td>+12</td><td>-10</td></tr> <tr><td>1,500</td><td>8</td><td>+15</td><td>-8</td><td>+7</td><td>-8</td></tr> <tr><td>1,650</td><td>8</td><td>+15</td><td>-8</td><td>+7</td><td>-8</td></tr> <tr><td>1,800</td><td>8</td><td>+15</td><td>-8</td><td>+7</td><td>-8</td></tr> <tr><td>2,000</td><td>8</td><td>+15</td><td>-8</td><td>+7</td><td>-8</td></tr> <tr><td>2,200</td><td>8</td><td>+15</td><td>-8</td><td>+7</td><td>-8</td></tr> <tr><td>2,400</td><td>10</td><td>+15</td><td>-10</td><td>+7</td><td>-10</td></tr> <tr><td>2,600</td><td>10</td><td>+15</td><td>-10</td><td>+7</td><td>-10</td></tr> <tr><td>2,800</td><td>10</td><td>+15</td><td>-10</td><td>+7</td><td>-10</td></tr> <tr><td>3,000</td><td>10</td><td>+15</td><td>-10</td><td>+7</td><td>-10</td></tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 規格値は、埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。 2. 接合時の測定は、原則として呼び径 700mm 以下の場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径 700mm 以下の測定は必要ない。</p>	呼び径(mm)	標準値	JIS A5372 RC管				規格値		規格値		良質地盤	軟弱地盤	良質地盤	軟弱地盤	150	6	+10	-6	+5	-6	200	6	+10	-6	+5	-6	250	6	+10	-6	+5	-6	300	6	+9	-6	+4	-6	350	6	+9	-6	+4	-6	400	8	+9	-8	+3	-8	450	8	+9	-8	+3	-8	500	8	+9	-8	+3	-8	600	8	+12	-8	+5	-8	700	8	+10	-8	+4	-8	800	8	+12	-8	+5	-8	900	8	+15	-8	+7	-8	1,000	10	+18	-10	+8	-10	1,100	10	+19	-10	+9	-10	1,200	10	+21	-10	+11	-10	1,350	10	+23	-10	+12	-10	1,500	8	+15	-8	+7	-8	1,650	8	+15	-8	+7	-8	1,800	8	+15	-8	+7	-8	2,000	8	+15	-8	+7	-8	2,200	8	+15	-8	+7	-8	2,400	10	+15	-10	+7	-10	2,600	10	+15	-10	+7	-10	2,800	10	+15	-10	+7	-10	3,000	10	+15	-10	+7	-10	<p>別表ア 管水路(コンクリート二次製品)のジョイント間隔規格値 (単位: mm)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">呼び径(mm)</th> <th rowspan="3">標準値</th> <th colspan="4">JIS A5372 RC管</th> </tr> <tr> <th colspan="2">規格値</th> <th colspan="2">規格値</th> </tr> <tr> <th>良質地盤</th> <th>軟弱地盤</th> <th>良質地盤</th> <th>軟弱地盤</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>150</td><td>6</td><td>+10</td><td>-6</td><td>+5</td><td>-6</td></tr> <tr><td>200</td><td>6</td><td>+10</td><td>-6</td><td>+5</td><td>-6</td></tr> <tr><td>250</td><td>6</td><td>+10</td><td>-6</td><td>+5</td><td>-6</td></tr> <tr><td>300</td><td>6</td><td>+9</td><td>-6</td><td>+4</td><td>-6</td></tr> <tr><td>350</td><td>6</td><td>+9</td><td>-6</td><td>+4</td><td>-6</td></tr> <tr><td>400</td><td>8</td><td>+9</td><td>-8</td><td>+3</td><td>-8</td></tr> <tr><td>450</td><td>8</td><td>+9</td><td>-8</td><td>+3</td><td>-8</td></tr> <tr><td>500</td><td>8</td><td>+9</td><td>-8</td><td>+3</td><td>-8</td></tr> <tr><td>600</td><td>8</td><td>+12</td><td>-8</td><td>+5</td><td>-8</td></tr> <tr><td>700</td><td>8</td><td>+10</td><td>-8</td><td>+4</td><td>-8</td></tr> <tr><td>800</td><td>8</td><td>+12</td><td>-8</td><td>+5</td><td>-8</td></tr> <tr><td>900</td><td>8</td><td>+15</td><td>-8</td><td>+7</td><td>-8</td></tr> <tr><td>1,000</td><td>10</td><td>+18</td><td>-10</td><td>+8</td><td>-10</td></tr> <tr><td>1,100</td><td>10</td><td>+19</td><td>-10</td><td>+9</td><td>-10</td></tr> <tr><td>1,200</td><td>10</td><td>+21</td><td>-10</td><td>+11</td><td>-10</td></tr> <tr><td>1,350</td><td>10</td><td>+23</td><td>-10</td><td>+12</td><td>-10</td></tr> <tr><td>1,500</td><td>8</td><td>+15</td><td>-8</td><td>+7</td><td>-8</td></tr> <tr><td>1,650</td><td>8</td><td>+15</td><td>-8</td><td>+7</td><td>-8</td></tr> <tr><td>1,800</td><td>8</td><td>+15</td><td>-8</td><td>+7</td><td>-8</td></tr> <tr><td>2,000</td><td>8</td><td>+15</td><td>-8</td><td>+7</td><td>-8</td></tr> <tr><td>2,200</td><td>8</td><td>+15</td><td>-8</td><td>+7</td><td>-8</td></tr> <tr><td>2,400</td><td>10</td><td>+15</td><td>-10</td><td>+7</td><td>-10</td></tr> <tr><td>2,600</td><td>10</td><td>+15</td><td>-10</td><td>+7</td><td>-10</td></tr> <tr><td>2,800</td><td>10</td><td>+15</td><td>-10</td><td>+7</td><td>-10</td></tr> <tr><td>3,000</td><td>10</td><td>+15</td><td>-10</td><td>+7</td><td>-10</td></tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 規格値は、埋戻し後の値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。 2. 接合時の測定は、原則として呼び径 700mm 以下の場合、管の外から確認してもよい。また、埋戻し後の測定は、原則として呼び径 700mm 以下の測定は必要ない。 3. () は、JIS A5303 RC管(スペーサー用ゴムを添付)の規格下限値を示している。 なお、規格上限値は、JIS A5372 RC管と同一とする。</p>	呼び径(mm)	標準値	JIS A5372 RC管				規格値		規格値		良質地盤	軟弱地盤	良質地盤	軟弱地盤	150	6	+10	-6	+5	-6	200	6	+10	-6	+5	-6	250	6	+10	-6	+5	-6	300	6	+9	-6	+4	-6	350	6	+9	-6	+4	-6	400	8	+9	-8	+3	-8	450	8	+9	-8	+3	-8	500	8	+9	-8	+3	-8	600	8	+12	-8	+5	-8	700	8	+10	-8	+4	-8	800	8	+12	-8	+5	-8	900	8	+15	-8	+7	-8	1,000	10	+18	-10	+8	-10	1,100	10	+19	-10	+9	-10	1,200	10	+21	-10	+11	-10	1,350	10	+23	-10	+12	-10	1,500	8	+15	-8	+7	-8	1,650	8	+15	-8	+7	-8	1,800	8	+15	-8	+7	-8	2,000	8	+15	-8	+7	-8	2,200	8	+15	-8	+7	-8	2,400	10	+15	-10	+7	-10	2,600	10	+15	-10	+7	-10	2,800	10	+15	-10	+7	-10	3,000	10	+15	-10	+7	-10
呼び径(mm)	標準値			JIS A5372 RC管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
				規格値		規格値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
		良質地盤	軟弱地盤	良質地盤	軟弱地盤																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
150	6	+10	-6	+5	-6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
200	6	+10	-6	+5	-6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
250	6	+10	-6	+5	-6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
300	6	+9	-6	+4	-6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
350	6	+9	-6	+4	-6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
400	8	+9	-8	+3	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
450	8	+9	-8	+3	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
500	8	+9	-8	+3	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
600	8	+12	-8	+5	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
700	8	+10	-8	+4	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
800	8	+12	-8	+5	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
900	8	+15	-8	+7	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,000	10	+18	-10	+8	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,100	10	+19	-10	+9	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,200	10	+21	-10	+11	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,350	10	+23	-10	+12	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,500	8	+15	-8	+7	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,650	8	+15	-8	+7	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,800	8	+15	-8	+7	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
2,000	8	+15	-8	+7	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
2,200	8	+15	-8	+7	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
2,400	10	+15	-10	+7	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
2,600	10	+15	-10	+7	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
2,800	10	+15	-10	+7	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
3,000	10	+15	-10	+7	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
呼び径(mm)	標準値	JIS A5372 RC管																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		規格値		規格値																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		良質地盤	軟弱地盤	良質地盤	軟弱地盤																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
150	6	+10	-6	+5	-6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
200	6	+10	-6	+5	-6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
250	6	+10	-6	+5	-6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
300	6	+9	-6	+4	-6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
350	6	+9	-6	+4	-6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
400	8	+9	-8	+3	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
450	8	+9	-8	+3	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
500	8	+9	-8	+3	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
600	8	+12	-8	+5	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
700	8	+10	-8	+4	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
800	8	+12	-8	+5	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
900	8	+15	-8	+7	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,000	10	+18	-10	+8	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,100	10	+19	-10	+9	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,200	10	+21	-10	+11	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,350	10	+23	-10	+12	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,500	8	+15	-8	+7	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,650	8	+15	-8	+7	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
1,800	8	+15	-8	+7	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
2,000	8	+15	-8	+7	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
2,200	8	+15	-8	+7	-8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
2,400	10	+15	-10	+7	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
2,600	10	+15	-10	+7	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
2,800	10	+15	-10	+7	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
3,000	10	+15	-10	+7	-10																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

共通仕様書(農林水産土木工事編)「品質管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(令和2年4月1日)	旧(令和元年10月1日)				
	(削る)	<p>試験及び測定基準 (1)</p> <table border="1" data-bbox="1187 300 1921 1177"> <thead> <tr> <th data-bbox="1187 300 1355 347">試験・測定項目</th> <th data-bbox="1355 300 1921 347">対象構造物</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1187 347 1355 1177"> コンクリート圧縮強度試験 (公的試験機関での実施) </td> <td data-bbox="1355 347 1921 1177"> レディーミクストコンクリートを用い水中コンクリート、転圧コンクリート等の特殊なコンクリートを除き次の構造物を対象とする。 (1) 高さが5m以上の鉄筋コンクリート擁壁 (ただし、プレキャスト製品は除く。) (2) 内空断面積25㎡以上の鉄筋コンクリート、カルバート類 (3) 橋梁上部工・下部工(ただし、購入桁は除く) (4) トンネル (5) 高さが3m以上の堰、水門、橋門 (6) 堤高5m以上の治山ダム (7) 監督員が指定した構造物 </td> </tr> </tbody> </table>	試験・測定項目	対象構造物	コンクリート圧縮強度試験 (公的試験機関での実施)	レディーミクストコンクリートを用い水中コンクリート、転圧コンクリート等の特殊なコンクリートを除き次の構造物を対象とする。 (1) 高さが5m以上の鉄筋コンクリート擁壁 (ただし、プレキャスト製品は除く。) (2) 内空断面積25㎡以上の鉄筋コンクリート、カルバート類 (3) 橋梁上部工・下部工(ただし、購入桁は除く) (4) トンネル (5) 高さが3m以上の堰、水門、橋門 (6) 堤高5m以上の治山ダム (7) 監督員が指定した構造物
試験・測定項目	対象構造物					
コンクリート圧縮強度試験 (公的試験機関での実施)	レディーミクストコンクリートを用い水中コンクリート、転圧コンクリート等の特殊なコンクリートを除き次の構造物を対象とする。 (1) 高さが5m以上の鉄筋コンクリート擁壁 (ただし、プレキャスト製品は除く。) (2) 内空断面積25㎡以上の鉄筋コンクリート、カルバート類 (3) 橋梁上部工・下部工(ただし、購入桁は除く) (4) トンネル (5) 高さが3m以上の堰、水門、橋門 (6) 堤高5m以上の治山ダム (7) 監督員が指定した構造物					

共通仕様書(農林水産土木工事編)「品質管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(令和2年4月1日)	旧(令和元年10月1日)
	(削る)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;"> 摘 要 </div> <p>【試験方法】 <u>JIS A1108</u></p> <p>【規格値】 1回の試験に用いる供試体は3本とし、1回の供試体の試験結果は、指定した呼び強度の85%以上であること。3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。但し、1回の試験結果が呼び強度を下回った場合には、構造物の設計強度が確保されていることを施工後試験によって確認すること。</p> <p>【試験基準】 1. 対象構造物の材齢28日の「標準養生」の圧縮強度とする。 2. 荷下ろし時。1日1回以上または構造物の重要度と工事の規模に応じて20m³～150m³ごとに1回行う。ただし、基礎コンクリート、練石種(張)の胴込コンクリート等は、1工事当たり工事規模に応じて1～3回程度とすることができる。なお、テストピースは打設場所で採取し、1回につき6本(σ 7-3本、σ 28-3本)とする。(早強セメントを使用する場合には、必要に応じてσ 3-3本についても採取する。) 3. 工種毎に1日1回以上または20m³～150m³ごとに1回の割合のうち測定頻度の高い方で実施する。なお、20m³～150m³の範囲は監督員との協議による。 4. 小規模工事で1工種当たりの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上。また、レディミクストコンクリート工場(JISマーク表示認定工場)の品質証明書等のみとすることができる。 5. 「材齢28日圧縮強度試験」の試験日が公的機関の休日等(試験を行わない日)にあたる場合は、当該休日の翌日に試験を行うものとする。</p> <p>【公的試験機関】 公的試験機関とは、国及び地方公共団体の試験機関、並びに国及び地方公共団体が設立に関わった公益法人の試験機関(県内では(財)ふくしま市町村建設支援機構)。なお、公的試験機関において、受け入れ能力などから圧縮強度試験の実施が困難な場合は監督員が承諾した施設において監督員の立ち会いで試験することができるものとする。</p> <p>【適用年月日】 <u>令和 元年10月 1日以降起工決裁にかかるもの。</u></p>

共通仕様書(農林水産土木工事編)「品質管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(令和2年4月1日)	旧(令和元年10月1日)				
	(削る)	<p>試験及び測定基準(2)</p> <table border="1" data-bbox="1171 300 1912 1273"> <thead> <tr> <th data-bbox="1171 300 1339 347">試験・測定項目</th> <th data-bbox="1339 300 1912 347">対象構造物</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1171 347 1339 1273">レディーミクストコンクリート単位水量の測定</td> <td data-bbox="1339 347 1912 1273"> <p>レディーミクストコンクリートを用い水中コンクリート、転圧コンクリート等の特殊なコンクリートを除き次の構造物を対象とする。</p> <p>(1) 高さが5m以上の鉄筋コンクリート擁壁 (ただし、プレキャスト製品は除く。)</p> <p>(2) 内空断面積25㎡以上の鉄筋コンクリート、カルバート類</p> <p>(3) 橋梁上部工・下部工(ただし、購入桁は除く)</p> <p>(4) トンネル</p> <p>(5) 高さが3m以上の堰、水門、樋門</p> <p>(6) 堤高5m以上の治山ダム</p> <p>(7) 建築関係工事については、1日当たりコンクリート種別毎の使用量が100㎡以上施工するコンクリート工</p> </td> </tr> </tbody> </table>	試験・測定項目	対象構造物	レディーミクストコンクリート単位水量の測定	<p>レディーミクストコンクリートを用い水中コンクリート、転圧コンクリート等の特殊なコンクリートを除き次の構造物を対象とする。</p> <p>(1) 高さが5m以上の鉄筋コンクリート擁壁 (ただし、プレキャスト製品は除く。)</p> <p>(2) 内空断面積25㎡以上の鉄筋コンクリート、カルバート類</p> <p>(3) 橋梁上部工・下部工(ただし、購入桁は除く)</p> <p>(4) トンネル</p> <p>(5) 高さが3m以上の堰、水門、樋門</p> <p>(6) 堤高5m以上の治山ダム</p> <p>(7) 建築関係工事については、1日当たりコンクリート種別毎の使用量が100㎡以上施工するコンクリート工</p>
試験・測定項目	対象構造物					
レディーミクストコンクリート単位水量の測定	<p>レディーミクストコンクリートを用い水中コンクリート、転圧コンクリート等の特殊なコンクリートを除き次の構造物を対象とする。</p> <p>(1) 高さが5m以上の鉄筋コンクリート擁壁 (ただし、プレキャスト製品は除く。)</p> <p>(2) 内空断面積25㎡以上の鉄筋コンクリート、カルバート類</p> <p>(3) 橋梁上部工・下部工(ただし、購入桁は除く)</p> <p>(4) トンネル</p> <p>(5) 高さが3m以上の堰、水門、樋門</p> <p>(6) 堤高5m以上の治山ダム</p> <p>(7) 建築関係工事については、1日当たりコンクリート種別毎の使用量が100㎡以上施工するコンクリート工</p>					

共通仕様書(農林水産土木工事編)「品質管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(令和2年4月1日)	旧(令和元年10月1日)																
	<p>(削る)</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">摘</th> <th style="text-align: center;">要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2"> <p><u>【試験方法】</u> エアメーター法(土研法)及び同等以上の測定法</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p><u>【試験基準】</u> 1日2回(午前1回、午後1回)、及び荷卸し時に品質変化が認められたとき。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p><u>【規格値】</u></p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>(1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m³(管理値)の範囲にある場合はそのまま施工して良い。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>(2) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m³(管理値)を超え±20kg/m³(指示値)の範囲内にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m³(管理値)以内で安定するまで、全運搬車の測定を行う。なお、管理値内に「安定するまでとは」、2回連続して管理値内の値を観測することをいう。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>(3) 測定した単位水量が、配合設計±20kg/m³の指示値を超える場合は、生コンを打込まず持帰らせ、受注者は水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならぬ。その後、配合設計±15kg/m³(管理値)以内で安定するまで全運搬車の測定を行う。なお、管理値または指示値を超える場合は、1回に限り試験を実施することができる。再試験を実施した場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さいほうの値で評価して良い。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>その他は、「福島県レディーミクストコンクリート単位水量測定要領」による。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	摘	要	<p><u>【試験方法】</u> エアメーター法(土研法)及び同等以上の測定法</p>		<p><u>【試験基準】</u> 1日2回(午前1回、午後1回)、及び荷卸し時に品質変化が認められたとき。</p>		<p><u>【規格値】</u></p>		<p>(1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m³(管理値)の範囲にある場合はそのまま施工して良い。</p>		<p>(2) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m³(管理値)を超え±20kg/m³(指示値)の範囲内にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m³(管理値)以内で安定するまで、全運搬車の測定を行う。なお、管理値内に「安定するまでとは」、2回連続して管理値内の値を観測することをいう。</p>		<p>(3) 測定した単位水量が、配合設計±20kg/m³の指示値を超える場合は、生コンを打込まず持帰らせ、受注者は水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならぬ。その後、配合設計±15kg/m³(管理値)以内で安定するまで全運搬車の測定を行う。なお、管理値または指示値を超える場合は、1回に限り試験を実施することができる。再試験を実施した場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さいほうの値で評価して良い。</p>		<p>その他は、「福島県レディーミクストコンクリート単位水量測定要領」による。</p>	
摘	要																	
<p><u>【試験方法】</u> エアメーター法(土研法)及び同等以上の測定法</p>																		
<p><u>【試験基準】</u> 1日2回(午前1回、午後1回)、及び荷卸し時に品質変化が認められたとき。</p>																		
<p><u>【規格値】</u></p>																		
<p>(1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m³(管理値)の範囲にある場合はそのまま施工して良い。</p>																		
<p>(2) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m³(管理値)を超え±20kg/m³(指示値)の範囲内にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m³(管理値)以内で安定するまで、全運搬車の測定を行う。なお、管理値内に「安定するまでとは」、2回連続して管理値内の値を観測することをいう。</p>																		
<p>(3) 測定した単位水量が、配合設計±20kg/m³の指示値を超える場合は、生コンを打込まず持帰らせ、受注者は水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならぬ。その後、配合設計±15kg/m³(管理値)以内で安定するまで全運搬車の測定を行う。なお、管理値または指示値を超える場合は、1回に限り試験を実施することができる。再試験を実施した場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さいほうの値で評価して良い。</p>																		
<p>その他は、「福島県レディーミクストコンクリート単位水量測定要領」による。</p>																		

共通仕様書(農林水産土木工事編)「品質管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(令和2年4月1日)	旧(令和元年10月1日)				
	(削る)	<p>試験及び測定基準 (3)</p> <table border="1" data-bbox="1162 296 1939 1289"> <thead> <tr> <th data-bbox="1167 300 1339 339">試験・測定項目</th> <th data-bbox="1339 300 1935 339">対象構造物</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1167 339 1339 424">硬化コンクリートの テストハンマー強度 試験</td> <td data-bbox="1339 339 1935 1286"> <ul style="list-style-type: none"> (1) 高さが5m以上の鉄筋コンクリート擁壁(ただし、プレキャスト製品は除く) (2) 内空断面積25㎡以上の鉄筋コンクリート、カルバート類 (3) 橋梁上部工・下部工(ただし、購入桁は除く) (4) トンネル (5) 高さが3m以上の堰、水門、樋門 (6) 治山ダム (7) 監督員が指定した構造物 </td> </tr> </tbody> </table>	試験・測定項目	対象構造物	硬化コンクリートの テストハンマー強度 試験	<ul style="list-style-type: none"> (1) 高さが5m以上の鉄筋コンクリート擁壁(ただし、プレキャスト製品は除く) (2) 内空断面積25㎡以上の鉄筋コンクリート、カルバート類 (3) 橋梁上部工・下部工(ただし、購入桁は除く) (4) トンネル (5) 高さが3m以上の堰、水門、樋門 (6) 治山ダム (7) 監督員が指定した構造物
試験・測定項目	対象構造物					
硬化コンクリートの テストハンマー強度 試験	<ul style="list-style-type: none"> (1) 高さが5m以上の鉄筋コンクリート擁壁(ただし、プレキャスト製品は除く) (2) 内空断面積25㎡以上の鉄筋コンクリート、カルバート類 (3) 橋梁上部工・下部工(ただし、購入桁は除く) (4) トンネル (5) 高さが3m以上の堰、水門、樋門 (6) 治山ダム (7) 監督員が指定した構造物 					

共通仕様書(農林水産土木工事編)「品質管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(令和2年4月1日)	旧(令和元年10月1日)		
	(削る)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">摘 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>1. テストハンマーによる強度試験</p> <p><u>【試験方法】</u> 「硬化コンクリートのテストハンマー強度の試験方法 (JSCE - G 504)」による。(「コンクリート標準示方書(規準編)」に掲載。)</p> <p><u>【規格値】</u> 設計図書による。(設計図書で定めるコンクリートの呼び強度)</p> <p><u>【試験基準】</u> ①各構造物単位につき、3箇所の試験を実施すること。 1箇所の測定打撃点数は、縁部から3cm以上入ったところで、互いに3cm以上の間隔を持った20点とする。 構造物単位とは、鉄筋コンクリート擁壁及びカルバート類は「目地間」、トンネルは「1打設部分」、その他の構造物は「強度が同じブロック」をいう。 ②試験の結果、所定の強度が得られない場合は、その箇所の周辺において再試験を5箇所実施する。</p> <p><u>【摘要】</u> ①テストハンマーによる強度試験の再試験の平均強度が所要の強度が得られない場合、もしくは1箇所の強度が設計強度の85%を下回った場合は「コアによる強度試験」を行うこと。 ②構造物毎に第41号様式「テストハンマーによる強度試験」(共通仕様書土木工事編Ⅲに掲載)を作成し、工事完成時に請負者から提出させること。</p> <p>2. コアによる強度試験</p> <p>(1) 対象構造物 テストハンマーによる強度試験の再試験の平均強度が所要の強度が得られなかった場合、もしくは1箇所の強度が設計強度の85%を下回った場合。</p> <p>(2) 試験方法 「コンクリートからのコア及びはりの切り取り方法並びに強度試験法 (JIS A 1107)」による。</p> <p>(3) 規格値 設計図書による。(設計図書で定めるコンクリートの呼び強度)</p> <p>(4) 摘要 ①コアの採取位置(所定の強度が得られない箇所の付近)について、監督員と協議を行ったうえで、設置された鉄筋を損傷させないように、コアを採取すること。 ②構造物毎に第40号様式「コンクリート圧縮強度試験」(共通仕様書土木工事編Ⅲに掲載)を作成し、工事完成時に請負者から提出させること。 ③圧縮強度試験は、公的機関において実施すること。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	摘 要	<p>1. テストハンマーによる強度試験</p> <p><u>【試験方法】</u> 「硬化コンクリートのテストハンマー強度の試験方法 (JSCE - G 504)」による。(「コンクリート標準示方書(規準編)」に掲載。)</p> <p><u>【規格値】</u> 設計図書による。(設計図書で定めるコンクリートの呼び強度)</p> <p><u>【試験基準】</u> ①各構造物単位につき、3箇所の試験を実施すること。 1箇所の測定打撃点数は、縁部から3cm以上入ったところで、互いに3cm以上の間隔を持った20点とする。 構造物単位とは、鉄筋コンクリート擁壁及びカルバート類は「目地間」、トンネルは「1打設部分」、その他の構造物は「強度が同じブロック」をいう。 ②試験の結果、所定の強度が得られない場合は、その箇所の周辺において再試験を5箇所実施する。</p> <p><u>【摘要】</u> ①テストハンマーによる強度試験の再試験の平均強度が所要の強度が得られない場合、もしくは1箇所の強度が設計強度の85%を下回った場合は「コアによる強度試験」を行うこと。 ②構造物毎に第41号様式「テストハンマーによる強度試験」(共通仕様書土木工事編Ⅲに掲載)を作成し、工事完成時に請負者から提出させること。</p> <p>2. コアによる強度試験</p> <p>(1) 対象構造物 テストハンマーによる強度試験の再試験の平均強度が所要の強度が得られなかった場合、もしくは1箇所の強度が設計強度の85%を下回った場合。</p> <p>(2) 試験方法 「コンクリートからのコア及びはりの切り取り方法並びに強度試験法 (JIS A 1107)」による。</p> <p>(3) 規格値 設計図書による。(設計図書で定めるコンクリートの呼び強度)</p> <p>(4) 摘要 ①コアの採取位置(所定の強度が得られない箇所の付近)について、監督員と協議を行ったうえで、設置された鉄筋を損傷させないように、コアを採取すること。 ②構造物毎に第40号様式「コンクリート圧縮強度試験」(共通仕様書土木工事編Ⅲに掲載)を作成し、工事完成時に請負者から提出させること。 ③圧縮強度試験は、公的機関において実施すること。</p>
摘 要				
<p>1. テストハンマーによる強度試験</p> <p><u>【試験方法】</u> 「硬化コンクリートのテストハンマー強度の試験方法 (JSCE - G 504)」による。(「コンクリート標準示方書(規準編)」に掲載。)</p> <p><u>【規格値】</u> 設計図書による。(設計図書で定めるコンクリートの呼び強度)</p> <p><u>【試験基準】</u> ①各構造物単位につき、3箇所の試験を実施すること。 1箇所の測定打撃点数は、縁部から3cm以上入ったところで、互いに3cm以上の間隔を持った20点とする。 構造物単位とは、鉄筋コンクリート擁壁及びカルバート類は「目地間」、トンネルは「1打設部分」、その他の構造物は「強度が同じブロック」をいう。 ②試験の結果、所定の強度が得られない場合は、その箇所の周辺において再試験を5箇所実施する。</p> <p><u>【摘要】</u> ①テストハンマーによる強度試験の再試験の平均強度が所要の強度が得られない場合、もしくは1箇所の強度が設計強度の85%を下回った場合は「コアによる強度試験」を行うこと。 ②構造物毎に第41号様式「テストハンマーによる強度試験」(共通仕様書土木工事編Ⅲに掲載)を作成し、工事完成時に請負者から提出させること。</p> <p>2. コアによる強度試験</p> <p>(1) 対象構造物 テストハンマーによる強度試験の再試験の平均強度が所要の強度が得られなかった場合、もしくは1箇所の強度が設計強度の85%を下回った場合。</p> <p>(2) 試験方法 「コンクリートからのコア及びはりの切り取り方法並びに強度試験法 (JIS A 1107)」による。</p> <p>(3) 規格値 設計図書による。(設計図書で定めるコンクリートの呼び強度)</p> <p>(4) 摘要 ①コアの採取位置(所定の強度が得られない箇所の付近)について、監督員と協議を行ったうえで、設置された鉄筋を損傷させないように、コアを採取すること。 ②構造物毎に第40号様式「コンクリート圧縮強度試験」(共通仕様書土木工事編Ⅲに掲載)を作成し、工事完成時に請負者から提出させること。 ③圧縮強度試験は、公的機関において実施すること。</p>				

共通仕様書(農林水産土木工事編)「品質管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(令和2年4月1日)					旧(令和元年10月1日)																										
	<p>試験及び測定基準</p> <table border="1" data-bbox="315 347 1106 895"> <thead> <tr> <th data-bbox="315 347 387 395">工種</th> <th data-bbox="387 347 443 395">種別</th> <th data-bbox="443 347 495 395">区分</th> <th data-bbox="495 347 647 395">試験項目</th> <th data-bbox="647 347 817 395">試験方法</th> <th data-bbox="817 347 1106 395">規格値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="315 395 387 651" rowspan="2">セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)</td> <td data-bbox="387 395 443 651" rowspan="2">施工</td> <td data-bbox="443 395 495 651" rowspan="2">必須</td> <td data-bbox="495 395 647 523">コンクリート圧縮強度試験</td> <td data-bbox="647 395 817 523">土木工事編Ⅱ 1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)適用</td> <td data-bbox="817 395 1106 523"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="495 523 647 651">単位水量測定</td> <td data-bbox="647 523 817 651">土木工事編Ⅱ 1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)適用</td> <td data-bbox="817 523 1106 651"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="315 651 387 895"></td> <td data-bbox="387 651 443 895" rowspan="2">施工後試験</td> <td data-bbox="443 651 495 895"></td> <td data-bbox="495 651 647 778">ハンマーによる強度推定調査</td> <td data-bbox="647 651 817 778">土木工事編Ⅱ 1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)適用</td> <td data-bbox="817 651 1106 778"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="315 778 387 895"></td> <td data-bbox="443 778 495 895"></td> <td data-bbox="495 778 647 895">ひび割れ調査</td> <td data-bbox="647 778 817 895">土木工事編Ⅱ 1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)適用</td> <td data-bbox="817 778 1106 895"></td> </tr> </tbody> </table>					工種	種別	区分	試験項目	試験方法	規格値	セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	施工	必須	コンクリート圧縮強度試験	土木工事編Ⅱ 1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)適用		単位水量測定	土木工事編Ⅱ 1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)適用			施工後試験		ハンマーによる強度推定調査	土木工事編Ⅱ 1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)適用				ひび割れ調査	土木工事編Ⅱ 1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)適用		<p>(新設)</p>
工種	種別	区分	試験項目	試験方法	規格値																											
セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)	施工	必須	コンクリート圧縮強度試験	土木工事編Ⅱ 1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)適用																												
			単位水量測定	土木工事編Ⅱ 1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)適用																												
	施工後試験		ハンマーによる強度推定調査	土木工事編Ⅱ 1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)適用																												
			ひび割れ調査	土木工事編Ⅱ 1 セメント・コンクリート(転圧コンクリート・コンクリートダム・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く)適用																												

共通仕様書(農林水産土木工事編)「品質管理基準及び規格値」新旧対照表

項	新(令和2年4月1日)	旧(令和元年10月1日)										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="315 284 703 331">試験基準</th> <th data-bbox="703 284 1095 331">摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="315 331 703 459">同左</td> <td data-bbox="703 331 1095 459">同左 ※ただし、砂防ダムを治山ダムと読み替えるものとする。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="315 459 703 587">同左</td> <td data-bbox="703 459 1095 587">同左 ※ただし、砂防ダムを治山ダムと読み替えるものとする。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="315 587 703 715">同左</td> <td data-bbox="703 587 1095 715">同左 ※ただし、砂防ダムを治山ダムと読み替えるものとする。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="315 715 703 842">同左</td> <td data-bbox="703 715 1095 842">同左 ※ただし、砂防ダムを治山ダムと読み替えるものとする。</td> </tr> </tbody> </table>	試験基準	摘要	同左	同左 ※ただし、砂防ダムを治山ダムと読み替えるものとする。	同左	同左 ※ただし、砂防ダムを治山ダムと読み替えるものとする。	同左	同左 ※ただし、砂防ダムを治山ダムと読み替えるものとする。	同左	同左 ※ただし、砂防ダムを治山ダムと読み替えるものとする。	<p style="text-align: center;">(新設)</p>
試験基準	摘要											
同左	同左 ※ただし、砂防ダムを治山ダムと読み替えるものとする。											
同左	同左 ※ただし、砂防ダムを治山ダムと読み替えるものとする。											
同左	同左 ※ただし、砂防ダムを治山ダムと読み替えるものとする。											
同左	同左 ※ただし、砂防ダムを治山ダムと読み替えるものとする。											